

世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（素案）の策定について

（付議の要旨） 世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（素案）を取りまとめたので報告する。

1. 主旨

小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）連続立体交差事業及び複々線化事業に伴い生じる上部空間について、区では平成25年9月に「小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（施設配置）（区案）」を取りまとめ、同年11月に小田急電鉄と共に「小田急線上部利用の施設配置（ゾーニング構想）」を公表したところである。

その後、施設配置（区案）で示した通路、緑地・小広場、立体緑地等について詳細検討を行い、施設構造等の方向性を整理し、連立事業の進捗に合わせたスケジュール等とともに施設配置（区案）へ追加・修正し、「世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（素案）」として取りまとめた。

2. 経過

平成25年 9月	小田急電鉄小田原線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（施設配置）（区案）の取りまとめ
平成25年 11月 11月～	小田急線上部利用の施設配置（ゾーニング構想）公表 通路、緑地・小広場、立体緑地等の詳細検討

3. 素案の概要

別紙「世田谷区小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（素案）」参照

（1）計画の位置付け

平成25年9月に策定した、小田急小田急線（代々木上原駅～梅ヶ丘駅間）上部利用計画（施設配置）（区案）に基づき策定する。

区新実施計画及び区都市整備方針において位置付けている。

（2）検討経過

平成25年度の上部利用計画（施設配置）（区案）策定後の検討経過と今後の予定を示す。

（3）公共利用する施設計画の基本的方針

①駅前広場、②通路、③緑地・小広場、④立体緑地、⑤人々が集う施設、⑥防災施設の考え方及び、⑦上部利用施設配置図について示す。

(4) 整備の進め方

- ・ 上部利用方針の考え方にに基づき、効率的・効果的な施設整備に鉄道事業者などと連携・協力して取り組む。
- ・ 区民に愛される公共施設整備に向けてさらなる区民参加を図る。
- ・ (仮称) トータルデザイン指針を策定し、周辺街づくりと連携した統一感ある都市空間の創出を目指す。
- ・ 連続立体交差事業の進捗により、上部利用が可能となる区間から順次着手する整備スケジュールを示す。

4. 概算事業費

総事業費 約 104 億円 (用地取得費、整備費)

駅前広場	約 85 億円 (内 用地取得費約 80 億円)
通路	約 2 億円
緑地・小広場	約 2 億円
立体緑地	約 11 億円
環七横断橋	約 4 億円
合計	約 104 億円

※緑地・小広場、立体緑地、通路等については、別途に用地の賃借を予定。

※各事業の進捗に向け、国庫補助金等の財源の確保を図る。

5. 今後の予定

平成 26 年	12 月	都市整備常任委員会 (素案報告)
		地上部利用検討会
平成 27 年	1 月	連続立体交差事業協議会
	2 月	立体緑地等のオープンハウス
	5 月～	政策会議 (案報告)
		都市整備常任委員会 (案報告)
		地上部利用検討会
		連続立体交差事業協議会
		上部利用計画決定
		以降、順次各区間の施設整備計画策定、整備着手